熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2023.9.15
第 209号
発行 入試・広報課

地域に貢献「臨時」から「登録」へ

本学衛生検査所 新型コロナPCR検査担う

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、PCR検査を行うため本学が臨時に開設していた衛生検査所が、熊本市の登録検査所となりました。これにより、恒久的に衛生検査所として機能することが可能になりました。

写真左は、熊本市から交付された「衛生検査所登録証明書。同下は、全自動PCR検査装置を操作する山本講師

本学では令和２年12月、新型コロナ関連PCR検査に特化した検査所を臨時に開設。熊本市医師会のPCRセンターを補完する形で教員ら10人がPCR検査に従事してきました。検体は同市医師会、行政機関、本学を含む大学関連機関から持ち込まれ、これまで扱ってきた検体数は約７万に上ります。

「臨時」から恒久的な検査活動が可能となる「登録」申請を行ったのは本年度に入ってから。５月に新型コロナ感染症が感染症法上の「５類」に移行したのを機に、同市医師会のPCRセンターが閉鎖。地域貢献のためにも、同センターが担当してきたPCR関連検査を本学が担う必要が出てきました。このため、本年度に入り同市に対して登録検査所の届け出を提出し、６月30日に正式に登録されました。

今回登録した検査分野は、これまで通り「遺伝子関連・染色体検査（病原体核酸検査）」。登録検査所になると、新たな感染症などが発生した場合、要件を満たせば登録検査分野の追加申請も可能です。担当する山本隆敏講師（医学検査学科）は「今後も新型コロナウイルス関連の検査業務を軸に進めていき、さらに地域に貢献していきたい」と話していました。（NL編集部）

夏期オープンキャンパス終了

過去最多 3回計2150人来学

９月期のオープンキャンパスが３日（日）に開催され、244人の参加者がありました。今回は13時までの開催でしたが、７月期、８月期同様、学科専攻毎の工夫を凝らした模擬実習のほか、「共通科目」紹介、在学生との交流、各種相談などの各種コーナーが開設され、７月期、８月期同様、学内は活気に満ちていました。

今回で本年度の夏期オープンキャンパスは終了。７月期、８月期、９月期合計で過去最多となる2150人の参加者がありました。

オープンキャンパスを担当した入試・広報課の久保田憲寿課長は、「数ある医療系大学の中で本学を選んでいただいたことに大変感謝しています。ぜひ令和6年度入試に繋がることを期待しています」と、話していました。（入試・広報課）

３日のオープンキャンパスで装具を体験する高校生

イキイキ輝き人

ソフトテニス成年女子監督として国体出場

中村　祐貴さん（健康・スポーツ教育研究センター）

10月に鹿児島県内で開催される国民体育大会（かごしま国体）のソフトテニスに、健康・スポーツ教育研究センター職員の中村祐貴さん＝写真＝が熊本県の成年女子チーム監督として臨みます。これまでコーチとして母校の文徳高校などで後進の指導にあたってきましたが、指揮官としてチームを率いるのは初めて。「個々の選手の技術と個性を見極めながらチームをつくっていきたい」と、本番を間近に控え準備に余念がありません。

プレーヤーから指導者に軸足／「新しいもの　つくっていく意識強く」

牛深市（現天草市）出身の31歳。中学時代にラケットを握って以来、ソフトテニスが生活の中心にありました。高校時代は国体（少年男子）チームの一員として７位入賞の原動力となったほか、インターハイも経験。大学、社会人時代も県内トップ選手の一人としてインカレ、国体、全日本選手権など全国規模の大会に出場を続けてきました。近年は指導者としての活動に軸足を移し、母校だけでなく民間のソフトテニススクールでも指導にあたっています。

本学には昨年４月、センター発足とともに臨時職員として入職。「スポーツトレーナー等の養成を支援する環境に身を置くことができてうれしい」と、笑顔で日々多様な仕事に従事しています。特に昨年度から相次いで締結している企業や各種団体との包括連携協定では、本学側の窓口となり準備段階から担当教員らとともに奔走。締結式での堂々とした司会進行ぶりには定評があります。

今年４月からは嘱託職員となり、「採用時は漠然とスポーツにかかわる仕事をやるんだといった程度にしか思っていませんでしたが、今はこれまでにない新しいものを（教職員や学生と）一緒につくっているんだという意識が強くなっています」と中村さん。スポーツ人としての転機を迎えつつあるようです。

（NL編集部）

大学院生10人　研究の進捗示す　修士学位論文中間発表会

大学院の修士学位論文中間発表会が７日（木）、1304M講義室であり、詰めかけた教員らの前で10人の大学院生が緊張した面持ちで研究の進捗状況を発表しました。

登壇したのは臨床検査領域の２人とリハビリテーション領域の８人。１人につき発表15分、質疑応答５分の持ち時間で、「体外式膜型人工肺（ECMO）の入口圧上昇のメカニズム」「失語症者における名詞の多義性に着目した評価方法の開発」など各自進めている研究の背景や研究計画・手法、現在の進捗状況などを紹介しました。発表に続く質疑応答では、教員側から細部にわたる質問だけでなく、研究への助言などもあり、会場は終始熱気にあふれていました。

発表を見守った川口研究科長は「それぞれの院生が自分のテーマを持ち、成果を挙げつつあることが確認できた。終了時間を超えて有意義な討論がなされたことも、大学院の充実ぶりを示しておりうれしい。発表者は、先生方から指摘を受けた点を改善しながら、２月の最終締め切りまで頑張ってほしい」と満足そうに話していました。

（NL編集部）

大学院生が次々と研究内容を披露した修士学位論文中間発表会の会場

ピア・サポ活動　他大学からも熱視線

❖ 別府大生が活動視察 ❖

別府大学のサポート学生４人と指導教員の川崎隆准教授が３日（日）、ピア・サポート活動視察のため来学しました。

同日はオープンキャンパスが開催されており、一行は「先輩と話してみよう」コーナーで来場者の相談に応じるピア・サポーターの様子を見学。その後、ランチ交流会に臨みました。席上、別府大学からは、ピア・サポーターの募集方法、登録人数、具体的な活動内容、養成講座などについて多くの質問があり、ピア・サポーターたちが自身の体験を交えながら説明していました。

写真上は、来学した別府大のサポート学生の皆さん（前列）。前列右端が川崎准教授。写真下は、熊本大で開かれたサポーター学生交流会。右端が片平さん

❖ 県内サポーター学生交流会 ❖

４日（月）には、熊本県内６大学によるサポーター学生交流会が熊本大学で開催され、本学からはピア・サポーターの片平帆風さん（医学検査学科４年生）が参加しました。学生たちが活発に活動報告や意見交換を行う中で、本学ピア・サポーターの登録学生の多さや、新入生オリエンテーションでの活動ぶりが注目を集めていました。

（学生相談・修学サポートセンター）

興味深そうにおもちゃを手にする参加者。左奥は益満准教授

「孫との遊び方わかった」

益満准教授 県民講座　おもちゃ使い〝コツ〟指導

熊本県生涯学習推進センター主催の県民向け特別講座「キャンパスパレア」が８月４日（金）、熊本市中央区のくまもと県民交流館パレアであり、益満美寿准教授（健康・スポーツ教育研究センター）が「子どもと『頑張らず』に遊ぶ方法～わが子や孫との触れ合い方のコツ』と題して講演しました。

少人数の講座のため、昔懐かしい紙風船、けん玉、竹とんぼ、コマや最新の小型ドローン、自動制御おもちゃなど、さまざまなおもちゃを紹介しながら実際に触れてもらう実演・参加型で進行しました。

参加者は興味深そうに手にし、「孫との遊び方がよくわかりました」「発達段階の基本を知る事が出来大変ありがたかった」「昔の遊びのおもちゃがなつかしく孫に教えたくなりました」などの感想を寄せてくれました。

（入試・広報課）

第47回杏祭に向けて

10月21日（土）に開催される「杏祭」に向けた準備が本格化しつつあります。本番を1カ月後に控え、杏祭実行委員長の庄崎綾華さん（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻2年）に思いなどを寄せてもらいました。

杏祭実行委員長　庄崎　綾華さん

悔いなく みんなで創り上げる

第47回杏祭を開催できることを心よりうれしく思います。

今年度は昨年度より規制も緩和され、学外の方々にも学園祭に来ていただける機会となりました。昨年度はコロナ禍でステージ企画の縮小、アリーナの入場制限、模擬店場所の変更など影響がありましたが、今年はコロナ禍前の例年通りに行える予定です。模擬店の場所もアリーナ近くに設置しており、ステージ企画と併せてより多くの集客を目指しています。

また、今年もゲストによるお笑いライブ、打ち上げ花火が見どころとなっています。

高校生の方々にも文化展、企画などの出し物を通して大学全体の雰囲気の良さや魅力が伝わればよいと願っています。

数年ぶりに規制なしということで分からないことも多く、不慣れながらも、各部署の実行委員が協力しながら杏祭を盛り上げようと頑張っています。数少ない学生主体の行事なので、「みんなで創り上げる」という気持ちを持って最後まで悔いのないようにやりきりたいです。

銀杏アラカルト

◆2･3年次保護者会（8月期） ８月21日（月）～９月４日（月）の15日間、医学検査学科３年次生、理学療法学専攻２年次生を対象とした保護者会を本学ホームページ特別サイトでWebオンデマンド開催し、多くの保護者に視聴してもらいました。２・３年次生の保護者会は、長期実習前に実習の目的と概要、さらにその先にある国家試験・就職あるいは大学院進学について、保護者に情報を届けることを目的としています。冒頭、竹屋元裕学長**＝写真＝**は「医療人にとって臨床実習はそのキャリアの根幹をなすもの。本学では多くの施設に協力していただき、本学の教員と各施設の指導者が協働で指導に当たって臨床実習を行っています」と、実習の意義や充実ぶりについて語りました。なお、保護者会期間中にはSG担任との三者面談（希望者のみ）も実施されました。（就職・実習支援課）

インフォメーション

週間行事予定（９月16日～22日）	
９ / 20（水）	理事会
９ / 21（木）	大学訪問（熊本国府高校）